

過去を解き明かすための 遺物との対話を 守りたい

広島大学考古学研究室
クラウドファンディングにて、ご寄付募集中
目標金額 400万円 寄付募集期間 2024年9月20日～11月18日

考古遺物は、過去を語る。 遺物と語り、見えてくるのは先人の“生きた証”

歴史学が文字で書かれた史料を頼りにするのに対し、考古学は古墳や遺跡、そしてその中から発掘された、“遺物（道具や動物の骨、食べ物の残滓など）”を頼りに、過去を明らかにする学問です。

歴史を遡ると、「文字」を操れるのは「上流階級」のごく一部の人々。つまり、“遺物”を手かがりに、過去を探る考古学では、一般の人々が生きた“リアルな過去”を復元します。

遺物からしか見えてこない一般の人々の“生きた証”が、確かに存在します。

しかし、日本の現代史を遡ると、経済成長の旗印のもと、古墳や遺跡が重機によって簡単に壊され、“遺物”が蔑ろにされてきた過去があります。

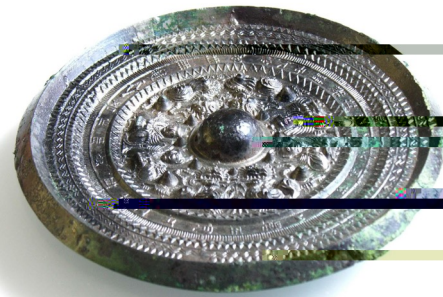
遺物、そして遺物との対話を守ることは、考古学の原点であり使命です。これまで、私たち広島大学考古学研究室は、保有する20万点の遺物を大切に守ってきました。

中でも特に貴重な遺物は、私たちの研究室で代々受け継がれてきた木造ケースに展示・収納しています。しかしこの木造展示ケースが劣化し、いつ壊れてもおかしくない状態に。

このままでは、遺物を守れなくなる危機に面しています。

遺物との対話を守るために。先人たちの“生きた証”を守るために。遺物を展示・収納するための木造ケースを修復したい。

温かいご寄付を、よろしくお願いいたします。



READYFOR

広島大学考古学研究室 レディーフォー



お問い合わせ先

広島大学考古学研究室

MAIL : crowdfunding@kouko.hiroshima-u.ac.jp

TEL : 082-424-6663

